

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 7つの習慣 | まず理解に徹し、そして理解される②

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

まず理解に徹し、そして理解される②

相手が話しているとき、私たちの「聞く」姿勢はたいてい次の四つのレベルのどれかである。

一番低いレベルは、相手を無視して話をまったく聞かない。

次のレベルは、聞くふりをする。こと。「うん、うん」とあいづちは打つが、話の中身はまったく耳に入っていない。

三番目のレベルは、選択的に聞く態度である。話の部分部分だけを耳に入れる。

四番目のレベルは、注意して聞く。神経を集中して、相手が話すことに注意を払う。

ほとんどの人は四番目のレベルが最高なのだが、実はもう一段上に、五番目のレベルがある。

これが、相手の身になって聴く、「共感による傾聴」である。

共感による傾聴とは、まず相手を理解しようと聴くことであり、相手の身になって聴くことである。

相手を理解しよう、本当に理解したいという気持ちで聴くことである。

共感とは、相手の視点に立ってみることである。

相手の目で物事を眺め、相手の見ている世界を見ることである。

それによって、相手のパラダイム、相手の気持を理解することである。

人の話を深く聴けるようになると、とらえ方は人によって大きく異なることがわかってくる。

そしてその違いこそが、相互依存の状態において他者と力を合わせて何かをするときにポジティブな効果をあたえることもわかってくる。

人はそれぞれ違いがあるのに、家庭でも会社でも、地域社会の奉仕活動でも、決められたリソースをうまく使って結果を出すために力を合わせなくてはならない。

そのためにはどうすればいいのだろうか。

自分のもののとらえ方の限界を超え、他者と深いコミュニケーションをとって協力して問題に取り組み、Win-Winの解決策に到達するには、どうすればいいのだろうか。

第5の習慣「まず理解に徹し、そして理解される」が、Win-Winの解決策に到達するための答えである。

まず理解に徹する。問題が起こる前に、評価したり処方したりする前に、自分の考えを主張する前に、まず理解するよう努力する。

それは、人と人が力を合わせる相互依存に必要な習慣である。

お互いに本当に理解し合えたとき、創造的な解決策、第3の案に通じる扉が開かれる。

私たちの相違点が、コミュニケーションや進歩を妨げることはなくなる。

それどころか、違いが踏み台になって、シナジーを創り出すことができるのである。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

教育カリキュラム

日本国憲法

傾聴

語り部スキル

▶ キーワード検索はこちら

▶ サイトマップ ▶ このサイトについて ▶ 個人情報保護の取組みについて

▶ ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE 【ワーカーズ・ライブラリー】

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.